

## 市民フォーラム 2 1 第 11 回環境部会 会議録（概要）

月日 平成 18 年 7 月 7 日（金）

時間 午前 9 時 30 分から

場所 第一庁舎 8 階 第一委員会室

### 資料 1 ～ 3 に基づき、分野間の調整事項及び基本計画骨子案（環境分野）について説明

部会長

分野間の調整事項に関する事務局案に対して意見はないか。都市整備部会にはどの程度引き継がれるのか。都市整備は都市整備の考え方があると思うが、尊重してほしい。

事務局

資料 3 で説明した住環境と景観については環境部会での議論の結果であり、今後、この状況を踏まえて都市整備部会へ移行し、議論いただくことになるものである。

部会長

では、次回からは都市整備部会での議論ということで、他になければ、基本計画骨子案（環境分野）についていかがか。

部会員

資料 2 の 36 番の意見に対する回答であるが、「災害発生を考慮した公園の整備」は削除するにしても、防災部会では公園の整備だけを捉え、緑化の見直しという点をきちんと理解して掲げられるのか。

事務局

防災部会の担当者と調整した結果を示したものであるが、「密集市街地の安全向上対策」には公園の整備が含まれるという考えであったことから、削除するとしたものである。

部会員

おそらく防災部会では密集市街地にスペースを入れて延焼を食い止めるという発想であると思うので、緑化といった観点で引き継いでもらわないと問題がある。

専門部会員

防災に掲げるのであれば、延焼の防止対策としての緑化の視点を入れる必要がある。

部会長

防災部会に引き継ぐに当たっては、留意してほしい。

部会員

施策 211 - 01「協働による取組の推進」の主な取組に「ながの環境パートナーシップ・・・」とあるが、現在のながの環境パートナーシップ会議はここに書かれているような充実し、市民権を得た組織でないと思う。最初に掲げていることは理解できるが、今のままでは有名無実になってしまう気がする。現実問題として、「・・・環境保全や創造に向けた取組の実行」と言われると担うことは難しいように思う。

専門部会員

ながの環境パートナーシップ会議は現実的な取組を行っていると考えており、行政とすると

今後も支援させていただきたいと考えているものがある。活動の中には一部停滞しているものもあるが、今後も一緒になって取り組みましょうというスタンスで掲げている。

部会員

長野市内に他に組織がない状況はわかるが、ながの環境パートナーシップ会議に関わっていない市民からすると、大した影響はないように思える。現在、参加している方のためにも掲げる必要性はわかるが、掲げるに当たっては、もっと市民に広げるような抜本的な見直しを盛り込むべきでないか。市民からすれば今ははっきり言って、あってもなくてもいいような組織になっている。

事務局

スーパーで買い物をしていけばノーレジ袋のポスターが貼ってあるので、市民生活に関わりがない組織とは言い難い。市役所からすれば、一緒になって環境保全に取り組みましょうという代表的な組織であるので掲げている。抜本的な見直し策については実施計画で示すとして、基本計画レベルではこのまま掲げていきたい。

部会員

そのとおりであるかもしれないが、だとするならば、逆に実施計画を期待してしまう。市民が市役所に来たら、環境パートナーシップコーナーがあり、だれでも活動を知ることができるような状況や会員を募る方法を考えていく必要がある。今よりも桁の違う組織にしていけないと、なかなか環境保全や創造に向けた取組は難しいと思う。

部会員

大事なところは事務事業として下に送っていると思うが、作業部会が秋までで、来春には基本計画がスタートするとなると、この下の計画はいつだれがどのようにして作るのか。各担当課に任せてしまうにしても、この場でこういう意見があったから責任を持って伝える必要があると思うが、上手くいかなくて不完全燃焼のようになっても困る。

事務局

来年度予算の要求は秋口から始まるが、新規事業については限られた財源ということがあるので、税金を使うことがふさわしい事業かどうか事前に評価している。この新規・拡充事業は各担当課で考え要求するものであるが、この作業部会の意見を貴重な参考とさせていただくために、各担当課の課長が同席している状況である。

部会長

確かに、作りっ放しにして、後は任せたということはどうかと思う。

事務局

確かに今までは、ある意味作りっ放しであった。今後は今策定中の施策体系に沿って、どんな事業を展開するのか公開していく。実施計画は事業費を入れて19~21年度までの3年間にどんな事業を行うか公開する。ここでの議論を基にいくらを使い、どのように事業展開するかオープンにしていく。

部会長

今の話を聞くと、基本計画に掲げるには覚悟しないといけないような気がする。

部会員

実施計画がなければ、基本計画に掲げた取組は方向だけを示しただけで、保障されたもので

はないので、逃げちゃったような話しになる気がする。

部会員

予算であるが、ながの環境パートナーシップ会議では市民と行政が2～3か月に一度顔を合わせるの、要望に対する回答や進捗状況を確認する機会があり、個人的には今の話しは筆を置くことができる。

部会員

主な取組に掲げた方向は、実施計画がなければ担保されたものでないので、このへんで手を打ったほうがいいのかと思う。

部会長

環境全てのことをここで決めるということも危険であるし、ある程度の幅を残しておく必要がある。

専門部会員

今後の予算は基本計画の体系での方向に沿って要求していくものであり、このように書いておかなければならない。実施計画がないという指摘であるが、予算は議会との関係もあり、行政だけで決められるものではない。

部会長

全体に関わる議論になったが、個別の意見はないか。

部会員

施策 211 - 02 の2つ目の主な取組に「・・・長野市版学校ISOの導入の検討」とあるが、環境パートナーシップ会議では「学校版マネジメントシステム」にしようという考えでまとまっている。

部会員

名称の問題もあるが、一番は地球環境問題に対する取組の実効性であり、いかに二酸化炭素を削減するから、マネジメントシステムもどうかと思う。

部会長

この問題は言葉を替えるだけで対応できるので、時間を置いて考えたい。

専門部会員

学校以外の施設はISOを適用しており、簡易ISOという言い方もある。学校教育に中での環境教育はやりっぱなしであるので、きちんと評価していく必要があることから掲げたいと考えている。名称については、ながの環境パートナーシップ会議のメンバーと詰めたい。

部会長

方向性が間違っていなければ、個々の言葉は素案化する中で修正したい。他になれば、次に進みたい。

#### 資料4に基づき、基本計画指標（たたき台）について説明

部会長

まず、指標全体に関する質問を受けて、個々の意見をいただきたい。

部会員

いくつかの指標に団体数があるが、団体に入っている人数は把握できるか。

専門部会員

把握している。

部会員

団体数が 14 から 15 に増えたということよりは、団体に加入して行動している人が 10 人から 1,000 人に増えたというほうが適している。

部会員

自然観察会の参加者は正確な数字をつかめないと思っている。つまり、把握できる数字というのは環境管理課なりの担当課の管理下におけるものであって、実際の活動とまでは言えるものではない。エコクラブの関係では、環境管理課への届出が必要だから把握できるけれども、幼児や高校生は対象になっていないから、果たして適した指標なのか疑問がある。どこの市町村でも同様の指標を使っており、否定するつもりはないが、視点を変えられないか。例えば、子どもたちに「自然が豊かですか。」というようなアンケートを行って、子どもたちが総合計画の指標を評価するといった仕組みが必要でないか。

部会長

掲げる指標は、現時点で数値が存在して、毎年把握できること等の最低限の条件があるので、条件を踏まえた意見をお願いしたい。

部会員

「太陽光発電量」が例示されているが、太陽熱利用はエネルギーで算出するか電気で算出するかは別であるけれども、どうか。「ホテルを見ることがある市民の割合」という指標があるが、長野市は毎年ホテルが生息している場所を調べていると聞いたことがある。場所の数よりはホテルを見た市民の人数にしたらおもしろいと思う。それから、止めたいけどいつも出てくる「公園面積」は山手に大規模の公園を設置すれば、数値は増えるので問題がある。豊かな自然が残っている状況をどのような視点で捉えるかが大切である。

部会員

指標として掲げた場合に、その指標に関わる人は頑張るようになるので、黙っていても良くなるから数は多いほうが良いと思うが、逆に市民からすれば、少ないと関心を持ってもらえると思うので数は少ないほうが良いと思う。どんな指標をいくつ掲げるかは難しい。

部会員

基本施策の指標を把握するために行うアンケートを見てみると、細分化されていて、自分には訊かれても答えられない項目がいくつかあるので、市民生活に密着したものにすることが必要がある。

部会員

「公共下水道等の普及促進」の指標はただ普及すれば良いということではないと思うので、処理に伴って発生する汚泥の問題だとか、それを処理するためにかかるコストの問題というのはどうか。普及すればきれいな水が確保できるという視点しか読み取れないけれども、実は汚泥をなるべく出さない視点ということが重要であると思う。一番市民生活と密接な施策であるのに、指標は生活と関わりの少ない数字になっていることが気にかかる。

部会員

長野市に入ってくる物質（化石燃料等）と廃棄物として出ている物質が概算でもわかるといい。循環型社会を目指して、どんなに減量化や再資源化といっても、入ってくる物質が多ければ意味がない。二酸化窒素の指標があったが、水質もBODの平均値等の具体的な数字として出るはずなので掲げたらどうか。

部会長

こうしたほうがいいというようなご意見ではなかなか進まないの、全体のバランスを考慮した上で、こちらのほうが適しているといった具体的な意見をお願いしたい。

専門部会員

数値を出せるか出せないかということについては確認するが、個別に具体的な指標があれば、教えていただきたい。

部会員

「地球環境を大切に思っている市民の割合」というのは、多くの市民が大切にしていると答えると思うので、もう少し踏み込んで、「具体的な取組をしていますか。」という質問にしてはどうか。

部会員

「地球環境を大切に努力（行動）をしている市民の割合」のほうが適切であると思う。

部会員

「上下水道等の整備」の質問は「きれいな排水を流すように気をつけていますか。」という視点のほうがふさわしいと思う。

専門部会員

「緑化・親水空間の充実・創造」については「公園」だけに限定せずに「河川」を含めた「やすらぎの感じられる空間」としたほうがいい。次に進めたい。

#### 資料5に基づき、基本計画骨子案（行財政分野）について説明

部会長

本日は時間がなくなったので、次回も継続して指標について議論することとしたい。本日は以上とする。